

津田淑江\*、○山田正子\*、大家千恵子\*\*、小寺俊子\*<sup>3</sup>

(\*共立女子短大、\*\*東京文化短大、\*<sup>3</sup>雪印乳業)

(目的) 全国的に全出生者数は平成元年から平成10年までに減少する中、低体重児出生は増加し、一昨年は過去10年で、低体重児の出産が最多記録をしたことが報告されている。演者らは、低体重児、正常体重児を出産した産婦の、妊娠前過去一年間の食物摂取頻度を調査し、栄養摂取量の算出を行った結果、エネルギー、蛋白質、カルシウムの栄養所要量に対する充足率が80%以下の人の割合は低体重児出産婦に高い傾向が見られ、またBMI19.5以下の値を示す人の割合も高いことを明らかにし、日本調理科学会平成12年度大会で発表した。本研究ではさらに低体重児出産女性に焦点を当て、非妊時の食生活や生活習慣と低体重児出生との関連を調査分析し、現在の食生活の問題点を浮きぼりにする事を目的とした。(方法) 対象は国立岡山病院小児医療センター内で正常体重児、低体重児、態度などの食行動パターンについての食生活に関するアンケート調査を行い、栄養摂取量の算出、食行動パターンの因子分析を通してその相違点を解析した。(結果) 正常体重児出産女性の栄養摂取量はエネルギー1714Kcal、蛋白質58g、脂質56g、低体重児出産女性ではエネルギー1549Kcal、蛋白質52g、脂質53gであり、いずれも5%の危険率で有意に低体重児出産女性の方が低かった。低体重児の週令におよぼす諸要因を回帰分析で行ったところ、重相関係数0.996の回帰式を得ることが出来た。要因としては、子供の体重、母親の年令、母親のタンパク質充足率、好き嫌い、カルシウム充足率、スナック菓子の摂取などが影響を与えることがわかった。